

平成 27 年度 事業報告

社会福祉法人 音更晩成園

平成 25 年に施行された障害者総合支援法の附則による 3 年後の見直しについては、「常時介護を要する障害者に対する支援について」・「障害支援区分認定を含めた支給決定について」・「高齢の障害者に対する支援のあり方について」等、10 の論点に整理し審議され、昨年 12 月に報告書がまとめられた。

この報告書では、

- ①新たな地域生活の展開
- ②障害者のニーズに対するきめ細かな対応
- ③質の高いサービスを継続的に利用できる環境

の 3 本の柱が提起されており、入所施設やグループホームを利用し地域でひとり暮らしをしている障害者に対して定期的な巡回訪問・相談支援を行うサービス、就労定着のために事業所・家庭との連絡調整をする就労定着サービス、重度の障害児に対して居宅訪問する発達支援サービスの 3 つのサービスが示されている。

その他にも低所得の障害福祉サービス利用者が介護保険サービスに移行した際の負担軽減等、平成 30 年度以降の改正についての動向も注視しているところである。

また、社会福祉法の改正による社会福祉法人制度改革(平成 28~29 年)への対応を図るため役員含め各種研修に積極的に参加し、法人事業運営の透明性の確保および財務規律の強化への準備を進めてきたところである。

利用者の権利擁護に関しては、障害者虐待防止法が施行され 3 年が経過する中、相変わらず他の福祉施設・事業所における虐待事件の報道が後を絶たないが、これらを教訓として単に職員の研修にとどまらず、昨年 12 月に施行された改正労働安全衛生法によるストレスチェック制度への対応等メンタルケアの充実と労働環境の改善に努めてきた。

なお、一昨年前から準備を進めてきた創立 50 周年記念事業は、12 月 1 日に挙行了した記念式典・祝賀会・記念誌の発行に加え、別日程で利用者と役職員による記念昼食会を開催し、開設時からの歴史をスライドにより懐かしみ好評を得ることができた。

これらを含め、平成 27 年度は主として以下の通り事業を推進した。

【中長期計画における施設整備計画と財政基盤の確保】

◇晩成学園・緑陽荘の改築に向けての検討

改築検討委員会設置準備とたたき台となる設計図の作成

◇グループホーム入居者の居住環境の改善

『ポラリス(旧木野西寮)』・『木野住宅』の改築、移転

◇デイセンターにおける就労継続 B 型支援事業の取り組み強化

真空包装機の更新と真空定量充填機の導入(町助成)および工賃月額を増額

◇法人の経営・財務状況の把握と透明性のある労務管理・財務管理を目的とした社会保険労務士事務所、会計事務所との委託契約の検討

◇車両の新規購入と更新

- ・法人本部 軽車両(新規購入)
- ・晩成学園 車椅子対応軽車両(新規購入)
- ・晩成学園 作業活動用軽トラック(更新)

【虐待防止と権利擁護】

◇各種虐待防止研修の参加と参加者による法人職員への伝達講習会の実施

◇虐待防止委員会による法人内部研修の実施

- ◇発達障がい者支援等への専門性の習得のための研修
- 【職員処遇の向上と人材確保・育成の取り組み】
- ◇職員処遇の改善
 - 処遇改善事業の有効活用と正規職員への登用検討
- ◇資格取得に向けた支援
 - 特別休暇を付与しての資格取得強化
- ◇メンタルヘルス・腰痛検査・労働災害への対応

晩成学園 事業報告

平成27年度は、音更晩成園が創立されて50年という大きな節目の年として、50年という半世紀にわたる当法人の歴史を振り返り、その歩んできた重みを改めて実感しました。今後も歴史を積み重ねて行く為には、利用者の安心・安全な生活と充実した日々が送れるよう施設入所の在り方、個々のニーズに合わせた日中活動の提供等、様々な課題を抱えている現状があります。

特に施設の老朽化と利用者の重度・高齢化に現状の設備での対応が年々難しくなっており、これからの展望を見据えた短期、中・長期の計画の必要性があり、将来の施設改築に生かせるよう先進の施設を見学してきました。

障がい福祉の情勢としては、毎年の様に目まぐるしく改正されていく福祉政策の中、平成27年度は、介護報酬の引き下げと共に障がい福祉分野に関しても基本報酬や加算等が改正され、前年度実績を若干下回る結果となりました。

加算条件も厳しくなり、特に重度障がい者支援加算の改正により強度行動障害については、強度行動障害支援者養成研修の受講が必須であり、今年度も多数申し込みしましたが、結果として養成研修・基礎研修に各1名ずつしか受講出来ず課題となっています。

権利擁護については、権利擁護・虐待防止部会が中心となり、権利擁護と虐待防止に向けた自己チェックや施設内研修を行い、利用者一人一人の意思の尊重と自己決定を重視し、また人権の尊厳と権利を尊重した支援に繋がるよう、職員一同、常に意識しながら日々支援にあたり、利用者主体、権利擁護を中心にスタッフの専門性の育成に努めてきました。

またOJT、OFF-JT、更に資格取得の奨励を行うと共にSDS（Self・Development・System 自己啓発援助制度）を行い（国家試験日の移動日も含めた特別休暇や参考書の購入等）、職員の資質向上やスキルアップ、資格取得を図り人材の育成に務めてきました。

地域貢献について、公益性が高いとされる社会福祉法人として、今何が出来るのか、利用者の方が関わって出来る事は何かと模索し、当事業で育苗している花の苗を町内の保育所や学校等に寄贈し、花壇で植えて観賞して頂ければと、音更町の福祉課や教育委員会と相談し、27年度は小・中学校3校に花の苗を計200ポット、プランターケースに定植した花を計10器寄贈しています。今後も寄贈先を増やし、花を見て心が和んで頂ければと思います。

今年度も事務局も含めた晩成学園全職員で協力体制をとりながら乗り切った一年間でした。

27年度の事業を以下の通り推し進めましたのでご報告致します。

支援体制の充実

- ・利用者の処遇向上を図るため、直接処遇職員を1名増員
- ・利用者の重度・高齢化、障がいの多様化（強度行動障がい者等）に応え、きめ細かな支援の提供に務めるため、早番と遅番の時差勤務の導入
 - ・強度行動障がい者の個々の行動に合わせた支援計画の作成と対応、また記録整備の実施
 - ・個別のニーズに合わせた個別支援計画の作成とモニタリングの実施（年2回）
- ・特定相談支援事業所として利用者・保護者のニーズに合わせた「サービス等利用計画案」や「サービス等利用計画」の作成とモニタリングの実施
 - ・特定相談支援事業所として計画相談に重点を置いた人員を1名配置し、相談支援研修会等への定期的な参加を通して専門性の向上に努める
 - ・自立支援協議会や相談支援研修会への定期的な参加
 - ・具体的な計画作成の為に週間カリキュラム会議（毎週）、月間カリキュラム会議（毎月）の実施

日中活動の充実

- ・個々の能力やニーズに合わせた日中活動の提供
- ・重度・高齢化に伴い機能維持を目的とした機能訓練やリハビリ的活動の実施
 - 個々の身体状況や症状に配慮しながら、残存機能の維持回復を図る為の健康予防体操・リハビリ体操・便秘予防体操・嚥下体操・マッサージの往診・手足のマッサージ・フットバス等を実施
- ・絵画・壁面作りの創作活動、ウォーキング・ビデオ体操・軽運動、レクリエーションの実施
 - ・サークル活動の実施
 - （創作活動や軽運動等、利用者のニーズに合わせたプランで実施）
 - ・小グループでの道外旅行の実施
 - （5月に3泊4日で東京方面へ5名参加）
 - ・小グループでの道内旅行の実施
 - （7月に2泊3日でルスツ・登別方面へ9名参加）
 - ・小グループでの引率外出の実施（部会主催）
 - （6プラン～計13回実施）
 - ・小グループでの引率外出の実施（各班主任）
 - （6班～計16回実施）
 - ・ひまわりの会主催の温泉一泊旅行の実施
 - （5月～10月に7プラン～計10回実施）
 - ・ひまわりの会主催の各種行事の実施（レクリエーション大会・まんぷく祭り、忘年会等）

医療

医療に関しては、利用者個々の疾病状況や日々の様子観察を通して、早期受診・早期発見を心掛け、健康管理と共に健康寿命の維持に努めてきました。

また健康診断についても昨年度と同様に往診での実施と春の健康診断時に検査項目を増やし、再検査の時期を暖かい時期に実施した事により利用者への負担軽減に繋がったと思われます。

平成27年度の通院者・入院者の年間延べ人数として、通院人数1,224人（月平均102人）、入院者17人、27回（重複者含む）と通院者数は若干減少していますが、入院者数は前年度とほぼ同様でした。特に入院については、肺炎による入院者が多かった年でした。救急車の要請も2回ありましたが、いずれも無事に退院され、緊急時のマニュアルに沿った対応が出来たと思われます。通院については、毎月約100人前後の方が受診という状況が毎年続いており検討課題となっています。

通院と共に服薬者も年々増加しており、薬の管理業務や服薬者への対応等、支援課全体での協力体制と服薬業務マニュアルの見直しを行い、ヒューマンエラーによる服薬事故防止にも努めてきました。

誠に残念ながら疾病による療養で入退院を繰り返されていた75歳男性が昨年5月に、72歳男性が11月に逝去されています。

28年1月にインフルエンザが流行し、利用者全体（入所・通所）で24名が罹患しましたが、職員・利用者全員が医師の指示で予防用のタミフルを服用した事で、入所者については、幸い13名の罹患者だけで収束しています。

- ・健康診断の実施（春と秋の2回～往診による実施）（音更宏明館病院・日本健康クラブ）
- ・前立腺がん検診の実施（健康診断時に実施）
- ・歯科検診を往診にて実施（緑陽台歯科）
- ・肝炎ウイルス検査の実施
- ・子宮がん検診・乳がん検診の実施
- ・骨粗鬆症検診の実施
- ・肺炎球菌ワクチン接種の実施
- ・インフルエンザ予防接種を往診にて実施（音更宏明館病院）
- ・感染症についての対応（年間を通してのうがい・手洗い・消毒、園舎内の清掃の徹底）

給食

給食に関しては、利用者の方の日々の生活の中で一番の楽しみであり、毎月実施している給食運営会議に利用者の方に参加して頂き、希望を取り入れた献立作りと併せて季節感のあるメニューの提供を行い、日々充実した食生活を通して楽しみ・喜びに繋がるよう努めてきました。

また個々の利用者の疾病や咀嚼・嚥下状況に配慮したメニューを提供し、事故防止に努めてきましたが、個々によって様々ですが、年々、咀嚼や嚥下機能が低下してきている利用者も増えてきており、咽せ込みや誤嚥性肺炎になるケースもありました。その都度ケース会議等で検討し対応した他、4半期毎の栄養スクリーニング会議や半年に一度の栄養ケア会議を通して事故防止に努めると共に、栄養マネジメントの向上を図ってきました。

- ・嗜好調査の実施
- ・給食運営会議の実施

検食簿による内容の検討と季節に合わせた選択メニューやバイキングメニューの決定（毎月、2班の利用者2名以上に参加して頂き給食に対する意見や希望等を取り入れる形での食事提供の実施）

- ・栄養ケアマネジメント会議の実施（年2回）
- ・栄養スクリーニング会議の実施（年4回）
- ・利用者の咀嚼や嚥下機能の状況に合わせた食事形態での食事の提供（刻み・極刻み・とろみ食・ミキサー食等）
- ・医師の食事指示箋による食事の提供
- ・必要に応じての介助（全介助・一部介助・見守り等）

権利擁護・虐待防止

- ・道知協や道社協主催の権利擁護研修会に参加
- ・各種希望や要望について利用者へのアンケートの実施
- ・虐待防止に関しての自己チェックの実施と検証
- ・権利擁護・虐待防止についての施設内研修の実施
- ・家族に対して権利擁護と虐待防止についての説明会の実施（保護者懇談会等）

人材育成・研修関係

ここ数年来、他職種からの採用者が多く当然福祉の経験が無く、個々の資質向上や離職対策として、エルダーや施設内研修等のOJT(On・The・Job・Training)、OFF-JT(Off・The・Job・Training)、更に27年度から始まったSDS(Self・Development・System)を積極的に取り入れ、専門知識の習得やスキルアップを図り、人材育成に務めると共に資格取得の推進を図り、個々の資質向上に繋がるよう務めてきました。

施設内養成・施設内研修

- ・エルダーによる新任職員の養成(1年間マンツーマンで助言や相談を行い養成)
- ・北海道地域生活定着支援釧路センターの職員をアドバイザーに招き、職員が講師となり「矯正施設退所者の処遇」についての施設内研修の実施
- ・音更消防署の職員を講師に招き、救命救急の施設内研修の実施
- ・看護師が講師となり「認知症」についての施設内研修の実施
- ・看護師と職員が講師となり「感染症対応」についての施設内研修の実施
- ・産業医である音更宏明館病院の藤井院長を講師に招き、「メンタルヘルス講習」を2回に分けて実施
- ・法人内研修として、総合施設長が講師となり「虐待防止・権利擁護」についての施設内研修の実施
- ・職員が講師となり「虐待防止・権利擁護」についての施設内研修を全職員56名に計5回に分けて実施
- ・看護師と職員が講師となり「家庭の医学」の施設内研修を2回に分けて実施

施設外研修

- ・音更町文化センターにて開催された道民フォーラム「発達障害の理解について」の講演会に職員14名が参加
- ・緑ヶ丘病院にて開催された地域公開講座「統合失調症について」の講演に職員19名が参加
- ・その他、日本知的障がい福祉協会・北海道知的障がい福祉協会・道東知的障がい福祉協会・十勝知的障がい施設協会・北海道社会福祉協議会等が主催する各種研修会に全職員が一人1回以上参加
- ・障がい支援区分認定調査員～新規2名取得
- ・強度行動障がい支援者養成研修(実践研修)修了～新規1名受講
- ・強度行動障がい支援者養成研修(基礎研修)修了～新規1名受講
- ・資格取得奨励と共にSDSによって、27年度は介護福祉士を10名が取得、社会福祉士を1名が取得

防災関係

年間防災計画に沿って、日中想定全職員参加の火災避難訓練と放水・消火訓練、夜間想定火災避難訓練と消火訓練、自然災害想定として地震が発生し、数分後に火災発生想定計3回の避難訓練を実施。

地震想定避難訓練については、昨年度までの課題であった、地震発生後に揺れが収まるまでその場で頭部等を防護するよう放送を行うが、放送と同時に避難する利用者が多数いましたが、毎年、地震想定(自然災害想定)の訓練を実施してきた事により、放送の通りに揺れが収まるまで、動かずに待つことが出来るようになってきています。今後も継続して訓練を実施し、火災や地震等様々な災害に対応出来るように努めていきます。

環境改善等

- ・将来設計を見据えて、先進的な施設見学の実施
- ・ゆうゆうダイルールの洗面所を車椅子対応にする改修工事の実施
- ・女性用トイレの背もたれ設置工事の実施
- ・公用車の購入（車椅子対応の医療用軽ワゴン車・事務用軽自動車の購入）
- ・公用車の更新（老朽化に伴い故障が続いていた軽トラックを中古車で購入）
- ・園舎中庭のウッドデッキ塗装の実施
- ・直売店の屋根の塗装とフェンスの改修の実施

地域貢献と地域との連携

- ・音更町教育委員会を通して、町内の小中学校3校に花の苗をポットのままで200ポット、プランターケースに定植した物を10器寄贈
- ・沿道沿いのゴミ拾いの実施
- ・地区連絡協議会運動会に参加
- ・町内のイベントへの参加

緑陽荘 事業報告

開設50周年昼食会で「懐かしいな…」と目を細めながらスクリーンを眺める利用者がおられましたが、私たちが長い時間をかけて積み上げてきた福祉サービスはこの利用者にとってプラスであったのか？豊かな人生であっただろうか…と改めて考える機会となりました。時代も障がい者を取り巻く環境も紆余曲折しながら変化を遂げてきましたが、50年前と大きく異なるのは、利用者の高齢化ではないでしょうか。法人の開設当初の日本の高齢化率は7%だったのに対し、現在は約27%。1人の高齢者を2.6人の現役世代で支えていることになり、高齢化率は今後も上昇を続けます。ここ数年、障がい者福祉においても高齢化への課題に直面しているとの声が多く聞かれますが、これといった解決策はいまだ見いだせていないように思います。当施設においても高齢の障がい者と向き合ってきた中で、作業に励む時間よりも趣味や余暇を楽しむ事などを重視しようと数年前より動き出しましたが、加速的に進む身体機能の低下や加齢に伴う精神面の変化など、日々変化する利用者への対応に苦慮する場面が日常的に見られています。長年施設を利用されていた方が亡くなられたり、長期療養のため退所されるなど悲しい事もありましたが、高齢の利用者の生活を支える為にどのような支援をすべきなのか、職員全体で考え、行動することのできた一年でもありました。

利

利用者支援

- ・利用者一人ひとりが健康で明るく楽しい生活を送って頂けるよう、個別支援計画を基に支援を展開してきました。特に生活支援においては全介助或いは一部介助が必要な利用者が殆どですが、残存機能に配慮する事も欠かせない支援となることから1人あたりに係る支援・介護時間が長くなっているのが現状です。
- ・数名の利用者が肺炎等により入退院を繰り返すケースがありました。高齢ということもあり「終末期」を意識しなければならない場面もありましたが、職員全体で最後まで心のこもった支援に努めました。

①施設入所支援

- ・入所の利用状況は、男性1名（73歳）が1月に死去、女性2名（72歳、79歳）が

長期療養に伴い退所されています。また10月に女性1名(25歳)が入所されています。

・入所利用者にはADLの低下が著しい利用者が多く、短いスパンで状態の変化が見られることから、生活支援や行事、余暇、日中活動を効率よく実施できるよう、日課や業務内容を適宜見直しました。

・勤務体制では早番・遅番各2名を配置し、今年度より対象となった重度障害者支援体制加算にスムーズに対応することができました。また、高齢・疾病による健康不安のある利用者も多いことから夜間の緊急対応に備え、自宅待機職員を配置しています。

②生活介護(通所すまいる)

・通所の利用状況は、男性1名(42歳)が9月に死去、男女各1名が施設入所のため退所されています。また3月より帯広養護学校高等部を卒業された男性(19歳)1名が新規に利用を開始しました。

・創作活動やレクリエーションなど従来から行ってきた活動の他、節句などの行事を中心に日中活動を実施しましたが、活動内容のマンネリ化も見られたことから、次年度では選択肢を増やすなど、魅力ある活動を提供できるよう創意工夫に努めます。

・保護者については、連絡帳や電話連絡、個別懇談を適宜実施、家庭での様子やニーズの把握に努めました。また今年度より保護者の希望が多かった入浴サービスを開始しています。ミストシャワーなど設備が整っている事もあり、身体の不自由な方も安心して利用することが出来ています。

保健

医療

・60歳以上で持病を抱える利用者が全体の約6割を占めている緑陽荘では、多くの時間を健康管理の支援に割いていますが、年度当初より入院を必要とするケースが9件ありその対応に追われました。入院された方には週3回以上の面会を実施し、医療機関との連携を図るとともに利用者の状態把握や精神的支援に取り組みました。

・排便コントロールや疾病の状態に合わせ特定保健用食品を積極的に取り入れました。

・体操やウォーキング、運動器具などを使いながら継続した機能訓練を実施していますが、その他に特定疾患や廃用症候群に伴う筋緊張や関節拘縮の改善を図るために訪問マッサージを週2回実施しています。

・感染症対策については、基本的な手洗い・うがい、施設内の衛生管理の徹底、インフルエンザ及び65歳以上の方には肺炎球菌ワクチン接種を実施しました。また、ノロウイルスなどの対策については、外部より講師を招いた研修会や感染症の発生を想定した実践的な研修を随時開催し、汚物処理方法等の理解に努めました。

給

食

・利用者の栄養状態の維持、改善や食生活の質の向上を図るため、調理方法や献立を工夫するとともに、栄養ケア会議等を通じて、他職種と連携しながら利用者個々の嚥下状態等の特性に配慮した食事の提供を行いました。

・嗜好調査の実施、利用者の方にも給食会議に出席していただくなかで個々のニーズを把握するとともに、行事食やバイキング、選択メニューなどを企画し、「食」に対する満足度を高めるための様々な取り組みを行いました。

・大量調理衛生マニュアルに基づき、衛生管理には細心の注意を払い、安心・安全な食事を提供できるよう努めました。

余暇支援

・集団生活がマンネリ化しないよう自治会主催の行事(夏祭り・クリスマス会)や選択行事を多く取り入れることで気分転換を図り、それが心のケアにも繋がりました。また、身

体機能の低下などで参加できる行事が少なくなっていますが、引率職員を増員するなどして道外旅行（沖縄）、道内旅行（登別）を実施しています。普段の生活では味わうことのできない特別な時間を過ごすことができました。

人権擁護と虐待防止

- ・施設内外の研修を通じて利用者の人権擁護、虐待防止についての啓発と意識高揚に努めました。また、虐待事例が報道された際は事例の報告と注意喚起を促す取り組みを行うとともに、利用者には自治会活動を通じて周知に努めました。
- ・また「業務振り返りチェック」を毎月実施、職員個々の利用者の支援に対する姿勢を振り返る機会を設けています。

リスクマネジメント（リスク及び苦情件数）

・サービス提供中のヒヤリハット報告の提出を励行し、ケース会議等で検証する中で、事故防止、再発防止に努めました。

事故報告	6件（骨折4件 車両事故2件）
アクシデント	43件
ヒヤリハット	10件
苦情件数	0件

防 災

・防災安全対策の徹底と職員の危機管理意識の向上を図るため、年2回の避難訓練（消火訓練含む）と非常用放送設備の取扱説明会を関係機関の協力のもと実施しました。また、音更町ハザードマップに従い、避難場所である緑陽台小学校まで徒歩で移動する「地震想定」の避難訓練も実施しました。

・備蓄品においては定期的に確認、補充をしていますが、近年発生している大災害で被害を受けた福祉施設の対応などを検証し、どのような対策、備えが必要なのか情報収集などに努め、今後の危機管理に役立てていきます。

育成

・質の高いサービスを追求するためには「人材育成」が最重要課題としてとらえ、また重度者支援や高齢化への対応、在宅支援（短期入所、日中一時）など、期待される役割を遂行できるよう、専門職としてのキャリアアップに繋がる研修などに積極的に参加しました。

整備、修繕

- ・開閉式階段落下防止柵の設置
- ・一般浴槽の改修（浴槽床かさ上げ）
- ・トイレ用サポート手摺りの設置

デイセンターばんせい 事業報告書

平成25年に障害者総合支援法が施行され、現在3年目の見直しが行われています。

①新たな地域生活の展開 ②障害者のニーズに対するきめ細やかな対応 ③質の高いサービスを持続的に利用できる環境整備を基本に据え議論がなされています。

本年4月からは障害者差別解消法がスタートする等、今なお私たちは大きな変化の中にいます。

平成27年度のデイセンターばんせいは、引き続き生活介護30名（定員）、就労継続支援B型10名（定員）で事業を進めております。障害者虐待防止法、障害者差別解消法の

視点から、人権や権利擁護を大切にすると共に、一人一人の利用者や保護者の願いにも目を向けながら支援を行ってきました。

生活介護については、多様なカリキュラム内容の設定はもちろんのこと、健康や高齢化への対応にも十分配慮し、楽しめるセンターであることを目標にしました。2年目に入った就労継続B型支援は、新たに目標工賃達成指導員を2名配置し、事業の効率化と工賃の増額を目指しました。特に平成26年度からはじまった、音更町の「ふるさと納税の謝礼品」としてのハム、ソーセージ等は、供給が追いつかない状況が生まれ、音更町からの助成を受け真空定量充填機を導入しています。

利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	22	21	23	269
在籍者数	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
利用延べ人数	487	482	490	517	476	459	518	483	505	472	484	522	5,895
平均利用者数	22.14	20.96	22.27	22.48	20.70	20.86	22.52	21.95	21.96	21.45	23.05	22.70	21.91
実績(%)	81.99	77.62	82.49	83.25	76.65	77.27	83.41	81.31	81.32	79.46	85.36	84.06	81.16

①生活介護

②就労継続支援B型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	22	21	23	269
在籍者数	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
利用延べ人数	264	257	276	280	259	257	285	261	282	252	259	289	3,221
平均利用者数	12.00	11.17	12.55	12.17	11.26	11.68	12.39	11.86	12.26	11.45	12.33	12.57	11.97
実績(%)	92.31	85.95	96.50	93.65	86.62	89.86	95.32	91.26	94.31	88.11	94.87	96.66	92.11

事業の概要

・生活介護事業

個々の利用者のニーズや特性に配慮しながら、生活支援、日中活動を提供し支援してきました。生活支援では、活動に参加しながらADL（日常生活動作）維持、向上を目指すことや、生活のリズムを整えられるよう行っています。特にセンターにおいても、他事業所同様、加齢化が進行中で、今後健康管理を含めた生活支援が重要になってくると考えています。

日中活動については、ご本人の意思決定を大切にしながら、生産活動と創作活動を柱にし各種プログラムの提供を行っています。その中で働くことへの意欲、生きがい、余暇時間の充実などに繋がるよう働きかける一方、行事、レクリエーション活動等では、楽しむことはもちろんのこと、社会性が高められるよう配慮しました。

・就労継続支援B型事業

帯広市内や音更町内の飲食店、各種イベント（10ヶ所）、お歳暮セット、そして音更町の「ふるさと納税の謝礼品」等が販売の中心となっています。事業については、適正な運営がなされるよう収支の推移を見ながら遂行しました。職員の技術を高めると共に、利用者個々についても、個別支援計画書に基づき、より生産者としての技術を高め、おいしく安全な食品作りを行っていきけるよう進めてきました。

目標工賃達成職員の配置、音更町からの真空定量充填機の援助等もあり、利用者に支払われる平均工賃月額約11,000円と増額となっています。今後は、利用者、保護者の期待に添うと共に、支援を頂いた音更町にも供給量と利用者工賃のアップ等で応えていきたいと考えています。

○主な販売実績

音更町物産センター	2,947,850円
有澤精肉店	1,680,101円

グリーンストーリー	360,000 円
オークル	283,260 円
A コーブルピナ	242,050 円
ららマルシェ	216,182 円
北海道ホープランド	146,017 円
更葉園	124,200 円
お歳暮セット	826,500 円
晩成学園	748,845 円
緑陽荘	176,540 円
直売店	933,980 円
開設 50 周年記念品	250,000 円
各種イベント	462,230 円
現金販売	3,875,124 円
その他	165,058 円

利用者支援

事業所の基本理念と共に関係諸法令を遵守し、利用者、保護者、地域社会に対して最善のサービスを提供できるように心がけました。また各種研修会出席や資格取得の中で、福祉職員としての専門性を高めながら、事業所の特色を生かした上で、利用者の個性や特性を大切にしながら支援してきました。

各種活動

・自治会活動

毎月一度、自治会役員会を中心に、行事、避難訓練、給食等、センターで行われていることを話し合っています。最近、各活動における身近なマナーが取り上げられ、議論されることが多い傾向があります。職員は情報提供をはじめ、必要に応じて助言を行う等、側面からの支援に徹しています。その他、役員構成を見直し、副会長を1名増員する等体制を厚くしました。

・生産活動（生活介護）

生産活動は馬鈴薯、牛蒡、ハウス野菜等を中心に16品目の野菜、2品目の花苗を生産しました。播種から収穫、販売に至るまで携わり、作物を栽培する楽しさを学ぶと共に、身体を使う場面も多く機能訓練の一つとしても取り組んでいます。肝心の収穫については、大根が軟腐病のため見込みを下回った以外は、概ね計画通りに進みました。新聞に取り上げられたしめ飾りは、100個近くを制作、販売でき収益に貢献しています。

・創作活動（生活介護）

年間を通して興味の持てる内容を提供できるよう、自由画、塗り絵、切り絵、ガラスデコ等を実施し、作品を作る楽しさや完成したときの喜びを感じられるようにしました。恒例のみんなあーと展には26作品を出展し、1作品が入選しています。共同作業となる壁面装飾と壁新聞も継続して実施しており、収穫祭の時にその成果を保護者に見ていただいています。

・行事・グループ活動

行事やグループ別活動は、季節感のあるものを提供し、利用者を選択してもらい実施しました。旅行は7月函館と9月富良野の2方面に分けて実施し、特に富良野では他の就労系事業所の見学も行っています。

収穫祭は、利用者の他、保護者22名も加わり総勢68名の参加を得ています。模擬店、巨大パンケーキ作り、スライドショー等に取り組みにぎやかに楽しみました。土曜に行われる土曜日レクリエーションは、年間26回実施、その他、開所記念昼食会、納涼レクリ

ーション、調理実習等も行い楽しんでいます。

・スポーツ活動

各種スポーツ大会には、今年度も積極的に参加しています。特に昨年度優勝した道東ミニバレーボール大会では2連覇を果たしました。その他、道東アジャタ大会では、Bリーグ2位。十知協パークゴルフ大会では、2チーム参加し2位を獲得するチームもある等健闘しています。日頃のスポーツ活動は、サンドームおとふけ、音更町温水プールをはじめ、他の遊具施設等を積極的に利用し、各種トレーニング、水泳、サイクリング、バッチング、アーチェリー、クロスカントリー等を行いました。

・給食

食事は、健康を維持するために栄養を摂取するだけでなく、日々の生活の中で楽しみ、味わうことも大切にしています。年間を通し「バイキング昼食」「選択メニュー」を計画的に実施し、利用者に楽しんでもらっています。給食運営会議、検食の結果を反映させることは、もちろんのこと、禁止食品の徹底、加齢化と合わせた喉詰りへの配慮等、事故の防止にも努めました。

・健康管理

連絡帳からの引き継ぎ、通所後のバイタル測定等、体調の把握を徹底し、必要に応じて看護師に報告指示を受けています。

夏場は水分補給をしっかりとし熱中症対策を取る一方、冬期間は手洗いうがい等、感染症対策の徹底を図ってきました。運動不足による体重増加を防ぐためや生活習慣病の予防のために、カリキュラムと連携させながら、身体を動かす機会も多く取り入れています。また、年齢が高くなるに連れて、歯磨きや義歯管理等の支援が大切になってくると共に、嚥下等を含めた幅広い口腔ケアの必要性が求められています。

・リスクマネジメント（事故報告及び苦情解決）

活動中の事故やヒヤリハットに関する報告を徹底することや、会議等含め原因や対策を追求することで未然に防げるようにしてきました。平成27年度の実績は、事故報告件数9、ヒヤリハット件数1、苦情件数0となっています。内容的には転倒事故が多い傾向が見られています。

・防災・安全対策

消防計画に基づいた避難訓練を実施し、センター全体での防災意識を高めるようにしてきました。特に職員については、災害発生時の役割確認や一連の対応方法を反復し、とっさの行動がとれるように訓練しました。今年度は、避難訓練を2回実施しています。

・職員研修

職場の理念のもと、職員の成長と組織の発展を目的とするものと理解しています。職場内研修はもちろんのこと、外部研修にも積極的に参加しました。特に今年度からは、新規採用者に対して職員教育の充実と離職防止を目標に、エルダー制度を導入しています。

・主な施設整備及び備品の購入

真空包装機の更新（8月）

真空定量充填機（9月）…音更町からの助成

スタッドレスタイヤ更新（マイクロバス、ハイエース）

地域支援センターらいふ事業報告

はじめに

平成25年4月に施行された障害者総合支援法の附則では、施行後3年を目途として障

害福祉サービスの在り方等について検討を加え、その結果に基づいて所要の措置を講ずることとされている。

このため、社会保障審議会障害者部会では、平成27年4月から検討を開始し、計45団体からヒアリングを行うとともに、計19回にわたって施策全般の見直しに向けた検討を行い、基本的な考え方について、「1. 新たな地域生活の展開」「2. 障害者のニーズに対するよりきめ細かな対応」、「3. 質の高いサービスを持続的に利用できる環境整備」の3つの柱に整理した。

今後、関係法律の改正や平成30年度に予定されている障害福祉サービスの次期報酬改定等に向けて、具体的な改正内容について検討を進め、財源を確保しつつその実現を図ることになる。

そうした中当事業所は、平成18年の準備室開設から10年が経過し、この間定員が40名から90名、ホーム数も7ホームから18ホームに増えて大所帯になっている。また、制度改正も幾度となく行われ、とりわけ消防法と建築基準法の改正により、消防用設備等の設置基準が改正され、平成27年度末までに設置が必要となっていた誘導灯の設置工事は全住居完了している。今後は平成30年度末までに設置義務のある自動火災通報装置の設置に向けて準備を進めていく必要がある。

一方利用者に目を転じると、高齢期を迎えた利用者は、いつまでも住み慣れた環境のもとで生活が続けることが望ましいわけだが、24時間体制で介助や支援をすることが難しいので、老化に伴う心身の変化に対応して安心・安全の確保が十分にできない場合には、今後老人施設の利用も検討しなければならない状況にある。

事業体系

グループホーム（共同生活援助〔介護サービス包括型〕事業）

ナインハイツ（男性4名）・こずえホーム（男性4名）・いちいホーム（女性3名）
ホーム 飯高（男性4名）・ハイツ木野（女性3名）・ひまわり（男性4名）
ハイツ97（男性8名）・木野住宅（男性5名）・鈴蘭住宅（男性6名）
太陽（男性6名）・コスモス（女性6名）・すみれ（女性6名）
ラベンダー（女性6名）・ポラリス（男性5名）・どりーむ（男性4名）
ひびき（男性5名）・みずき（男性3名・女性2名）・朝陽（男性4名）

※平成28年3月31日まで

運営体制

- ・1課1係2班体制を敷き、18ホームの支援に当たっている。
- ・勤務体制は、平日早番2名、平常4名～5名、遅番3名～4名、日祭日（1日通し）2名としている。
- ・各ホームは担当割りとして、班職員で相談・協力により利用者を支援し、また業務分掌も同様に分担している。

日常生活支援

①生活支援

自立生活を送る上で必要となる社会人としての自覚を高め、多くの社会経験を重ねていくことを目指し支援してきた。特に対人関係を保つための社会的ルール、仕事をすの上での責任など、利用者に理解しやすい日常的な事柄に即して支援した。また、利用者が適切な支援を得るために自己の意志を表現することができるよう、利用者・世話人・支援員の関係の構築に努め、各々が安心して生活できるよう、個々の心配事や悩み、不安に対して親身に受け止め安定を図れるよう支援した。

②健康管理

・音更町の一般・特定健診及びがん検診、勤務先や活動先若しくは掛かり付けの医療機関で健診を受けている。年齢に関係なく生活習慣病の予備軍が増加しているため、健康に対する意識の向上や疾病の早期発見・早期治療に努める必要がある。

・今年度もインフルエンザ予防接種に加え、65歳以上の方を対象に「肺炎球菌ワクチン接種」を行っている。

・利用者の健康維持のために、定期的な通院と必要に応じての通院加療、投薬の管理を世話人と職員とで行っている。また、利用者自身での健康管理を促すために、うがいや手洗い、消毒、食後の歯磨き、定時薬の服用や塗布について自身で行えることは行ってもらい確認を行ってきた。

・歯科通院については、歯科検診を含めて定期に受診するようにしてからは治療が長期化する人が減っているため、今後も日頃の歯磨きの励行、義歯の管理や口腔内の保清への支援及び定期的な検診を実施する必要がある。

③食事の提供

食事は栄養と健康を維持するだけでなく、利用者にとって日々の生活の中で大きな楽しみとなっている。旬の食材を使用した季節感の感じられる食事や個々の健康状態に合わせた治療食の提供や嗜好に合わせたメニューの選定等質の高い食事を心がけてきた。また、食器洗いをしっかりと行い清潔を保てる様食後は確認し、不十分な箇所を教えてきれいになるまで洗い、しっかり拭いてもらうことで、少しずつではあるが洗い方や拭き方が改善してきている。

日中活動支援

・利用者が通勤している就労先と常に連絡を取り、経済的自立に向けて利用者が安定して休まずに通えるため就労先とセンターとで日中・夜間を通して一貫した支援を行うよう努めた。

・個別に問題が発生した際には就労先とも連携を図り、解決策についての相談・検討を重ね、問題解決に努めた。

・通所系のサービスを利用する方については活動先との連絡調整が増加傾向にあり、特に早退や休所、食事の有無等の確認が煩雑ではあるが、個別の状態を把握して今後も連絡を取り、安定して利用できるように配慮していきたい。

(就労先)

事業所名		事業所名	
十勝ランドリー有限会社	8名	株式会社セイコーフレッシュフーズ	1名
北海道製鎖株式会社	6名	十勝冷凍食品株式会社	1名
株式会社満寿屋商店	1名	株式会社オズホールディングス	1名
音更町農業協同組合	1名	かが屋	1名
株式会社エフビーエス	2名	有限会社パールクリーニング	1名
株式会社ダイイチ	3名	社会福祉法人音更晩成園	1名
東陽製袋株式会社	4名	株式会社福原	2名
株式会社長崎屋	2名	株式会社しまむら	2名
杉山農場	2名	有限会社ヤマトおしぼり	3名
富士金網製造株式会社	2名	有限会社ジャストフーズ	1名
株式会社柳月	3名	株式会社中野製作所	1名
医療法人徳洲会帯広徳洲会病院	1名	ニチロ畜産株式会社	1名
山本農場	1名		

〈活動先〉

法人名	施設・事業所名	
社会福祉法人音更晩成園	障がい者支援施設 晩成学園	8名
	障がい者支援施設 緑陽荘	5名
	障がい福祉サービス事業所デイセンターばんせい	20名
特定非営利活動法人どんぐりの家福祉会	どんぐりの家	4名
社会福祉法人音更町柏寿協会	在宅老人ケアセンター らんらん	1名

金銭管理

- ・利用者預かり金管理規程及び金銭出納管理サービス契約書にて利用者の預り金等の取り扱いに関する事項を定め、管理の適正を図っている。
- ・家賃は利用者数にて均等割し、一人当たり22,500円～50,000円とし、光熱水費、日用品費、食費などの生活費については従来どおりホーム単位で精算した。
- ・毎月の生活費は各ホームもしくはらいふにて管理している利用者の預金通帳より出金し、世話人はホームの金庫、支援員はらいふの金庫で管理した。毎月末には各項目別に収支報告書を作成し、らいふにて確認・監査を受けている。
- ・利用者の日々の小遣いは、各自の財布にて個人管理し、随時世話人及び支援員と共に残金を確認している。

安全管理

常に安全管理の意識を持ち、ヒヤリハットや軽微な事故があった場合には所定の報告書を作成し、ヒヤリハット・アクシデント会議で分析・評価を行い、事業所全体の危機管理・安全管理の意識向上に努めた。

項目	事故	ヒヤリハット	項目	事故	ヒヤリハット
1) 転倒・転落・けが等	4件	3件	2) 異食・禁食物摂取		
3) 誤嚥			4) 服薬関係		
5) 経管栄養	—	—	6) その他医療行為		
7) 所在不明・無断外出			8) 車関係	1件	
9) その他(行動面等)					
			合計	5件	3件

防災訓練の実施、防犯体制の整備

- ・火災震災等に関してはそれに対応すべく、年2回火災避難訓練を実施した(実施時期 6月、1月)。
- ・セコム株式会社とセキュリティサービスの契約を結び、火災や犯罪等の異常事態に備えている。

平成27年度の主な施設整備

- ①誘導灯の設置
- ②自動火災通報装置の設置(ナインハイツ、ハイツ木野、みずき、ひびき、木野住宅、ポラリス)

法人事務局事業報告

理事会開催状況

第1回 理事会 平成27年5月27日開催

- 協議事項 ◎平成26年度事業報告について
◎平成26年度音更晩成園資金収支決算等について
◎平成26年度決算監査報告について
◎諸規程・諸規則の制定について
・業務管理体制規程の制定

第2回 理事会 平成27年9月6日開催

- 協議事項 ◎苦情解決第三者委員の選任について
◎施設整備に向けて
◎創立50周年事業について
◎社会福祉法人制度改革（案）について

第3回 理事会 平成27年12月22日開催

- 協議事項 ◎事業者指定変更届の提出について
◎諸規程・諸規則の制定及び一部改正について
・特定個人情報取扱規程の制定
・ストレスチェック実施規程の制定
・安全衛生管理規程の一部改正
・就業規則の一部改正
・給与規程の一部改正

第4回 理事会 平成28年2月17日開催

- 協議事項 ◎車両の取得について

第5回 理事会 平成28年3月25日開催

- 協議事項 ◎平成27年度音更晩成園資金収支補正予算案について
◎管理者の選任について
◎事業者指定変更届の提出について
◎顧問（業務）契約締結について
◎給与規程の一部改正について
◎平成28年度事業計画について
◎平成28年度音更晩成園資金収支予算案について

評議員会開催状況

第1回 評議員会 平成27年5月27日開催

- 協議事項 ◎平成26年度事業報告について
◎平成26年度音更晩成園資金収支決算等について
◎平成26年度決算監査報告について
◎諸規程・諸規則の制定について
・業務管理体制規程の制定

第2回 評議員会 平成28年3月25日開催

- 協議事項 ◎平成27年度音更晩成園資金収支補正予算案について
◎顧問（業務）契約締結について
◎給与規程の一部改正について
◎平成28年度事業計画について
◎平成28年度音更晩成園資金収支予算案について

道実地指導の実施

地域支援センターらいふ 平成28年3月10日

法人監査実施状況

- 第1回 平成27年5月26日
◎平成26年度各会計収支決算状況について
- 第2回 平成27年8月3日
◎平成27年度第1・四半期の運営と経理について
各会計収支執行状況及び利用者預り金の管理状況について
- 第3回 平成27年11月2日
◎平成27年度第2・四半期の運営と経理について
各会計収支執行状況及び利用者預り金の管理状況について
- 第4回 平成28年2月2日
◎平成27年度第3・四半期の運営と経理について
各会計収支執行状況及び利用者預り金の管理状況について

虐待防止委員会開催状況

- 第1回 平成27年6月8日
◎平成27年度虐待防止委員会組織の確認について
◎平成27年度虐待防止委員会の業務推進について
- 第2回 平成28年2月24日
◎平成27年度事業所部会報告について
◎平成28年度虐待防止委員会業務推進について

虐待防止委員会研修会

- 第1回 平成28年2月24日 参加者38名
◎障がい者虐待の防止と権利擁護について
～総合施設長 菅原資之
平成27年度北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修
晩成学園 事業所内研修～五十川泰弘
平成28年3月9日～11日 参加者56名
緑陽荘 事業所内研修～矢代修司
平成27年12月16日 参加者17名
平成28年 3月3日・16日 参加者13名

法令遵守検討会議開催状況

- 第1回 平成27年6月19日

創立50周年記念事業実行委員会開催状況

- 第3回 平成27年11月18日

創立50周年記念事業

- 平成27年10月 2日～創立50周年記念昼食会
ベルクラシック 337名
- 平成27年12月 1日～創立50周年記念式典・祝賀会
音更総合福祉センター 140名
- 平成27年12月 1日～創立50周年記念誌発行 600部

保護者会行事「夏まつり」の実施状況

- 平成27年6月28日 晩成学園にて427名参加

役員等研修の実施

- 役員 十勝社会福祉法人経営者懇談会総会・研修会（帯広市）
平成27年4月24日 参加者 1名

道央知協社会福祉法人改革セミナー（千歳市）	
平成27年7月22日	参加者 1名
北海道社会福祉協議会ブロック研修（帯広市）	
平成27年9月 4日	参加者 2名
全国社会福祉施設経営者大会（大津市）	
平成27年9月17日～18日	参加者 4名
十勝社会福祉法人経営者懇談会研修会（帯広市）	
平成27年10月26日	参加者 4名
北海道社会福祉法人経営者協議会経営実務セミナー（札幌市）	
平成28年2月17日～18日	参加者 10名
衛生委員会施設内研修「メンタルヘルスケア」	
平成28年1月 8日	参加者 13名
平成28年2月 5日	参加者 21名

役職員等の動静

◎苦情解決第三者委員

10月 1日付 山田 寿夫（再任）
松本眞紀子（再任）

◎職員 新規採用(専任)

4月 1日付 森 千里(晩成学園臨時支援員)
國光 冴綺(晩成学園臨時支援員)
上野 栄子(デイセンター臨時支援員)
伊藤 勲(晩成学園支援員正職登用)
久保 壮史(晩成学園支援員正職登用)
清野 江美(晩成学園支援員正職登用)
橘 滋美(晩成学園支援員正職登用)
小森 智章(晩成学園支援員正職登用)
中山かおり(晩成学園支援員正職登用)
中山 涉(デイセンター支援員正職登用)
藤井 秀満(緑陽荘支援員正職登用)
後藤眞紀子(らいふ支援員正職登用)

4月13日付 朝倉あゆ美(晩成学園臨時支援員)

5月11日付 瀬戸 直子(デイセンター就労パート作業員)
川崎 五月(デイセンター就労パート作業員)

9月 1日付 須藤 太一(緑陽荘臨時支援員)
八ツ井あけみ(晩成学園臨時支援員)
藤田 好美(らいふ世話人)

12月14日付 佐藤 亜紀(晩成学園臨時支援員)

2月 1日付 菊地 摩里(晩成学園パート支援員)

3月 1日付 佐々木康貴(晩成学園臨時支援員)

3月 7日付 志田 卓也(晩成学園臨時支援員)
堀 美紀(デイセンター臨時支援員)

3月22日付 小山内裕香(デイセンター臨時支援員)
平野 美紀(晩成学園臨時支援員)

3月28日付 前鼻湧一郎(晩成学園臨時支援員)

退 職

7月31日付 川田 郁視(晩成学園臨時支援員)
9月30日付 小路谷 勇(緑陽荘臨時支援員)
12月31日付 八ツ井あけみ(晩成学園臨時支援員)
2月29日付 國光 冴綺(晩成学園臨時支援員)
3月31日付 水谷 聡(らいふ所長)
千葉 節子(らいふ支援員)
勝山 史江(デイセンター支援員)
若生 愛(晩成学園支援員)
上野 栄子(デイセンター臨時支援員)
國井 博之(緑陽荘臨時調理員)

諸規程の改正

- ◎業務管理体制規程の制定
- ◎特定個人情報取扱規程の制定
- ◎ストレスチェック実施規程の制定
- ◎安全衛生管理規程の一部改正
- ◎就業規則の一部改正
- ◎給与規程の一部改正